

岐阜県リニア中央新幹線活用戦略研究会 結果概要

1. 日時：令和 8 年 5 月 25 日（月） 13：30～14：40
2. 場所：岐阜県庁 1 階 ミナモホール
3. 発言内容

1 知事挨拶

- ・ニュースでご存じのとおり、静岡の問題がクリアされ、次のステージに入った。
- ・ただ、本県では瑞浪市大湫町の問題がある。先日 J R 東海の社長にお会いし、可能な限りの配慮をお願いしたいと伝えたところである。リニアができてよかったと感じていただけるようにしたい。
- ・リニアは国の形を変える大きなプロジェクトであり、多くの人に知ってもらい、未来の子供たちを含む多くの人々が喜ぶまちづくりを実現できるような取組も併せて行っていくことが大事。
- ・全国の注目が岐阜県に集まる中でどのように立ち回るか、大湫の方にどのように納得いただくかが大きなテーマである。
- ・本日は、未来に向けて忌憚のないご意見を賜りたい。

2 リニアを活用したまちづくりの推進について

○リニア推進課長

- ・配布資料に基づき説明

3 取組紹介

○中津川市 小栗市長

- ・リニアに関する意識は、我々東濃地域と西濃や飛騨地域などとは温度差があるのではないかと考えている。
- ・リニアが開業すれば、羽田から 1 時間半で岐阜県という立地になっている。羽田の国際線は 104 路線、セントレアは 48 路線ということで、世界から岐阜県へ訪れる方も増えると期待している。
- ・リニア開業を見据えた中津川市の取組について、市では「中津川市リニアまちづくりビジョン」を踏まえ、総合計画において、リニアを生かす戦略として 3 つの取組を行ってきた。
- ・一つ目は、市内の 3 つの中山道の宿場町と併せて、「リニアの宿場を創るまちづく

り」、二つ目に「中心市街地のにぎわいをつくるまちづくり」、三つ目に「人の流れを地域にみちびくまちづくり」として、取り組んできた。

- ・続いて、まちづくりの方向性について、次期総合計画の基本構想を策定し、将来都市像を「WONDERFUL WOODs～ワクワクする森～なかつがわ」とした。
- ・市では人口減少が取り組むべき大きな課題となっており、新たな総合計画では10の政策のうち、特に「定住人口（くらす）」、「交流人口（あそぶ）」、「就労人口（はたらく）」の3つの人口の増加を目指し、6つの分野に重点的に取り組む。
- ・コンセプトブックの中心となる概念であり、くらす、あそぶ、はたらく、そしてそれらをつなぐという考え方は「リニア岐阜県駅を核とした東濃・可茂圏域のまちづくりの具体的な方向性」と合致するものと考えている。
- ・市では令和9年度から始まる次期総合計画において、現在、実施計画を作成しているところ。これらのまちづくりを具体化し、わくわくする中津川市を作っていく。
- ・行政はもっと夢を語らないといけない。このコンセプトブックは、できるかどうか分からないが、夢を語る、子どもたちに夢を与えるコンセプトブックである。
- ・岐阜県の発展のために、リニアを活用できるよう連携して取り組んでまいりたい。

○恵那市 長谷川理事

- ・リニア開業に向けた取組の中で平成26年に「リニアまちづくり構想」を策定し、3つの柱を掲げ取り組んでいる。
- ・一つ目、観光振興ではSLの復元、二つ目、産業振興では新たな工業団地の建設に取り組んでいる。
- ・三つ目、基盤整備では「リニアまちづくり基盤整備計画」を策定し、広域アクセスの強化、市内のアクセス性、産業・観光の活性化ということで整備をしている。
- ・最上位計画である第三次総合計画がスタートし、先ほどの基盤整備も再度位置づけし取り組んでいる。
- ・4ページの図について、リニア中央新幹線の文字があるところが市の中央、赤い線が環状線となっている。
- ・その中で、広域アクセスについては、東西南北につながる道路として瑞浪恵那道路や東濃東部都市間連絡道路などを位置づけている他、令和6年度に事業化された恵那峡サービスエリアスマートICについては、恵那峡などの観光地へ恵那ICと2カ所からアクセスできることや濃飛横断自動車道を補完するものとして期待している。
- ・また、海外からの企業誘致も視野に取組を進めている。自動運転の取組も検討しながら進めてまいりたい。
- ・自動車に関連して、5月30日に世界ラリー選手権（WRC）が開催されるので、是

非来ていただきたい。

- ・千葉県から恵那市へ本社を移転した事例があるが、理由として、災害がないこととリニアが来ることを挙げられた。東京から約1時間ということが非常に大きいと言われ、この企業側の視点は東濃だけでなく岐阜県全体に波及していくものだと思う。

4 意見交換

○瑞浪市 水野市長

- ・大湫町の住民もリニアに反対しているわけではない。安心・安全な暮らしができる元の町に戻してほしいと望んでいる。リニア開業に向けて、市としても県と連携し、住民の方々と向き合っていきたい。
- ・市では令和6年から第7次総合計画がスタートしており、リニアを活用した様々な事業を位置づけている。
- ・リニア岐阜県駅をいかに活用するかが重要。アクセス問題として瑞浪恵那道路の工事が進められているが、リニア開業までに開通することを期待している。
- ・市としてはJR瑞浪駅の再開発事業を進めている。駅北に複合型公共施設、駐車場を整備し、来年早々に事業者を決定したい。駅南は組合施工で進めており、分譲マンションや商業棟などについて、リニア開業までの完成を目指している。
- ・また、リニア岐阜県駅ができれば企業や研究所、東濃5市では大学院や研究開発機関を誘致しようとしているが、その受け皿がないといけない。市では瑞浪ICから約1kmのところに新たな工業団地を整備していく。
- ・リニア中央新幹線の開業効果を、いかに瑞浪地域に取り込むかを第7次総合計画の大きな戦略としており、よろしくお願いしたい。

○多治見市 高木市長

- ・東濃の中では多治見市が一番リニア岐阜県駅から離れているが、やはりインフラということで、東濃西部都市間連絡道路、このバイパス機能の整備をしていただくことによって、リニア岐阜県駅を利用する人が増えていくと思う。
- ・多治見市は、中津川も名古屋も30分程度。インバウンド、観光、移住・定住などに力を入れ、両方のリニア駅の恩恵をしっかりと活用していきたい。
- ・現在は、市内にホテルが少ないということで、空き家を民泊にする取組を行っており、2年で10ヶ所整備した。リニアが開業するまでに受け入れ体制を作っていきたい。
- ・市だけではできないこともあるので、皆さんと連携しながらリニアの活用について検討してまいりたい。

○土岐市 加藤市長

- ・土岐市も想定以上の人口減少に見舞われており、行政界を越えた取組の必要性を感じている。
- ・観光面では、リニア沿線7市町で構成する東美濃歴史街道協議会で行政界を越えた取組を行っている。
- ・市にある核融合研究所では実用化に向けた取組が進んでおり、スタートアップ企業も参画して研究を進めている。リニア開業により、こうしたスタートアップ企業などの誘致や新産業の創出につながっていくものと思っている。
- ・若者に働ける場所を提供することが重要だと思っており、何度も申し上げるが、これは行政界を越え、広域的な取組の中で連携しながら進めてまいりたい。

○土岐市商工会議所 石黒会頭（土岐市観光協会会長）

- ・土岐には、アウトレットやイオンがあり1千万人以上が訪れているが、私が会長になった6年前にテラスゲート土岐の「まちゆい」は、ほとんどお客がいなかった。各市町長や観光協会に協力してもらい、東濃7市町の物産販売、観光案内所の「もとてらす東美濃」を作った。
- ・各市町温度差があり簡単ではなかったが、売上は当時から10倍、年間8万～10万人訪れる施設になった。まだまだこれからなので、よろしくお願いしたい。
- ・東美濃歴史街道協議会は行政と観光協会が一緒にやっているが、実際は行政が中心になって動いている。事務局の市町も2年に1回変わり、担当者も変わる。
- ・頑張ってはいるが、それが去年と比べてどの程度成果があったのかということが見えない。この10年それほど変わっておらず、これからの10年を考えたときに、シンクタンクを作るとか広域の観光DMOを作るとか、少なくとも5年くらいはそういうプロジェクトで動いていかないと、おそらく結果は出ないと思う。
- ・東海環状自動車道の西回りが完成して、土岐市観光協会と本巣市観光協会と交流している。以前は本巣まで2時間くらいかかったが、今は45分で行ける。道路も含めると岐阜圏域もリニア岐阜県駅と近くなり、色々な交流ができる。

○恵那市恵南商工会 加藤会長

- ・よりリニアの経済効果を岐阜県にもたらすためには、三河東美濃連絡道路などリニア岐阜県駅から南側の道路を考える必要がある。
- ・三河東美濃連絡道路は、まだ検討段階だと思うが、計画が進むようお願いしたい。

○知事

- ・土岐市観光協会会長が仰ったように、これまでの１０年の延長線上にこれからの１０年があるわけではない。
- ・資料１の３７ページで示したまちづくりのイメージ図について、どうしても東濃中心の議論になるが、この図を次作り直すときは、飛騨高山も西濃も、場合によっては愛知県も入れたいと思っている。
- ・先日ＪＴＢの方と面談した際、リニアができれば旅行プランの中に中津川、高山、大垣を入れると言っていた。岐阜県人からすると広く見えるが、東京から見たら中津川、高山、大垣も点だと。まさにこの感覚でまちづくりをしていく必要がある。
- ・空き家の活用について、白川町では移住ということで、３０代、４０代の方が非常に増えている。男性の育休が増えており、この時間だけでも自然の中で過ごせないかというニーズがある。
- ・また、美濃市、今年から山県市でも始まる保育園留学。子供が物心つくまでの間だけでも自然の中で、ということで空き家のニーズはどんどん増えている。
- ・リニアが来る前にこれなので、リニアが来たら二地域居住の場所として岐阜県は非常に大きなポテンシャルを持っている。
- ・この人生１００年時代に東京と地方両方楽しめる時代があと１０年でやってくる。それまでにどんなまちづくりをするかが大きなテーマになる。
- ・また、富士山の噴火は大きなリスクだが、岐阜県は富士山に西側で地球の自転の関係で富士山の火山灰は東に流れるため、サテライトを置くなら間違いなく西側がよい。
- ・人口はいきなり増えないが、関係人口はいきなり増える可能性が高い。
- ・岐阜県全体、場合によっては愛知県まで視野に入れたまちづくりを考えるきっかけをリニアがくれたと思っている。
- ・４２市町村全てが観光地であり、ポテンシャルがあるということを受け止めていただきながら今後ともご協力いただきたい。

以上